

## B コロナ禍下の牛・豚の部分肉価格の動向

(公財)日本食肉流通センターで毎月公表している牛・豚の部分肉価格(月報価格)首都圏で、コロナ感染症患者在国内で初めて確認された本年1月から6月までを昨年同月対比で比較し、その影響を調査した。

### 1 牛部分肉価格(首都圏)

ア. セット価格は単価の高い方が下落率が小さい傾向。

セット価格での昨年対比での1~6月間の下落率をみると、和牛「4」は和牛「3」及び交雑「3」に比べて小さい。6月をみると単価の最も安い交雑「3」の下落率(▲19%)が最も大きい。

和牛「3」は4月を底としてやや持ち直しているが、和牛「4」及び交雑「3」はその兆しは明確ではない。

イ. 高価格部位の方が、下落率が大きい傾向。

部分肉セット価格より、高い部位である高価格部位(ヒレ・ロイン)の下落率は、セット価格より安い低価格部位(ももセット・ともばら)に比べて大きい。

和牛では単価の高い部位ほど、下落率が大きい。

(和牛「4」本年5月・6月、ヒレ▲41%)

また、高価格部位では和牛「4」と「3」の価格差がほとんどなく、ヒレでは5月と6月において「3」の方が「4」より高い逆転まで起きている。

インバウンドの激減、外食・焼肉店の営業短縮及びホテルでの宴会激減等で高価格部位への需要が急激に低下したことにより、当該部位の投げ売りすらみられる状況を反映していると考ええる。

### 2 豚部分肉価格(首都圏)

牛部分肉価格と異なり、豚部分肉価格はセットを含め高価格・低価格部位とも、4月以降前年を上回って推移している。

ももの価格の上昇率が他の部位に比べやや大きい。量販店でのももの販売が好調であるためだろう。

5月の価格上昇率が高かったのは、主要な対日豚肉輸出国でのと畜場の操業率低下等による日本への供給不安が反映されたためであろう。